

## 令和2年度 病害虫発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 12月予報

### 【キュウリ・トマト】タバココナジラミ

タバココナジラミが媒介するウリ類退緑黄化ウイルスによるキュウリ退緑黄化病が県内で初めて確認されました(R2.11.16付け 発生予察特殊報第4号)。トマトでは以前より本虫が媒介する病害としてトマト黄化葉巻病が問題となっていますが、キュウリほ場においても本虫の対策を徹底してください。

### 【イチゴ】ハダニ類

同一ほ場内でも発生程度にばらつきがあります。ほ場内をよく観察し、局所的な発生に注意してください。なお、天敵を導入しているほ場においてハダニ類の発生が多い場合には天敵に影響の少ない薬剤で防除を実施してください。

### ○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(12月)

作物	病害虫名	12月(予測)	発生状況及び今後の予測	11月(発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、発病適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>うどんこ病</b> 発生初期の防除を徹底する。</li> <li>・<b>ハダニ類</b> ほ場内をよく観察し局所的な発生に注意する。</li> </ul>
	ハダニ類	やや少～並	中濃地域の調査ほ場では発生が認められており、今後の増加に注意する。	少	
	コナジラミ類	やや少	一部調査ほ場で発生が認められるが、今後は発生適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	やや少	
トマト	灰色かび病	少	葉先枯れ等での発病は認められない。曇天が続く場合、ほ場内の湿度が高まるため、発病に注意する。	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>コナジラミ類</b> 厳寒期でもほ場内では低密度で生息しているため防除を徹底する。</li> </ul>
	コナジラミ類	少	発生量はほ場内・外とも平年より少ない。今後は発生適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	
キュウリ	褐斑病	少	一部調査ほ場で発病が認められるが、平年より少ない。罹病性品種を栽培する場合は、発病に注意する。	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 11月調査は抑制栽培</li> <li>12月予測は半促成栽培</li> <li>・<b>べと病</b> 過湿時には循環扇等を利用し、通風を良くする。</li> <li>・<b>アザミウマ類(ミナミキイロ)</b> 一部ほ場で黄化えそ病の発生が確認された。本病の発生ほ場では、切り換え時に粒剤を施用する。長期越冬作型では発生を認めたら、防除を実施する。</li> </ul>
	うどんこ病	少	調査ほ場で発病が認められるが、平年より少ない。今後、発病適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	
	べと病	少	調査ほ場の発病は平年より少ない。曇天が続く場合、ほ場内の湿度が高まるため、罹病性品種では増加が予測される。	少	
	アザミウマ類	やや少	平年より少ないが、一部調査ほ場で発生が認められる。食害の目立つほ場があり、幼虫も確認される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種：イチゴ(濃姫・美濃娘)、トマト(桃太郎ネクスト：葉かび病耐病性)、キュウリ(まりん：褐斑病、べと病、うどんこ病耐病性) ※まりんは、抑制作型

### 野菜類 微小害虫

### 数値データ (岐阜・西濃地域 11月調査)

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病やキュウリ退緑黄化病のウイルスをそれぞれ媒介します。

これら微小害虫は、株と株とを移動し、次々とウイルスを媒介するため、低密度でも大きな被害を与えます。

冬春トマト栽培におけるタバココナジラミは、ほ場内で越冬するため、厳寒期のほ場内の防除を徹底し、春先の増加を抑えましょう。

キュウリでは、作型を切り換える場合(特に黄化えそ病が発生していた場合)は、次作の定植まで20日以上空け、保毒虫が次作に引き継がれないようにしましょう。

また、右記の対策により微小害虫の防除を徹底してください。

作物	病害虫名	発生率	発生率(%)
イチゴ	うどんこ病 (発病株率)	0	(0.0)
	ハダニ類 (寄生株率)	0	(12.6)
	コナジラミ類 (寄生株率)	0.7	(1.1)
トマト	灰色かび病 (発病果率)	0	(0.0)
	コナジラミ類 (誘殺頭数)	2.0	(4.2)
キュウリ	褐斑病 (発病葉率)	0.1	(5.7)
	うどんこ病 (発病葉率)	2.1	(8.9)
	べと病 (発病葉率)	0.2	(10.2)
	アザミウマ類 (寄生頭数/葉)	0.01	(0.24)

注1)イチゴ、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注2)( )内数値は平年値 株率、葉率及び果率は%

注3)トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査データ(11月 第1半旬～第3半旬までの累計誘殺数)

### ＝施設栽培の病害虫について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごと病害虫の発生状況が異なります。施設内及び周囲の状況をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

### ＝東海地方1か月予報＝

(名古屋地方気象台 11月26日発表)

向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並～少なく、日照時間は多いと予想されます。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

- ①前作の残渣やほ場内の雑草で生存するため、処分を徹底する。
- ②定植直後の増加を防ぐため、定植時には粒剤を施用する。
- ③開口部を防虫ネットで被覆する。
- ④薬剤散布を行う場合、同一系統薬剤の連用を避ける。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058)239-3161 FAX (058)234-0767



岐阜県病害虫防除所  
トップページ  
QRコード